

一人一人が未来の創り手となる豊かな学びの創造

— 高等学校外国語科における「問い」と「振り返り」の工夫を通して —

指導主事 濱 寛明

研究協力員 熊本県立大津高等学校 教諭 夏目 昌子

1 はじめに

グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定される。本実践において、外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育むことは、多様化が進み、様々な人々との相互理解や協働が必要となる現代社会において、持続可能な社会の担い手及び未来の創り手としての資質・能力を育むことにつながると考える。そこで、本実践では主たる言語活動として、スキット（寸劇）作成及び発表を行い、その中で、生徒が「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせながら、自らの考えや価値観を表現できるようにすることをねらいとする。

2 研究の視点について

(1) 視点1『見方・考え方』に着目した問いの工夫について

高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編（平成30年7月）には「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」として「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」と示されている。したがって、授業実践において、言語活動を設定する際にコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にすることは、問いの工夫の一つであると考ええる。

(2) 視点2「学びを実感する振り返りの工夫」について

各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き（平成25年3月）において、『CAN-DOリスト』の形で設定した学習到達目標を生徒と共有するとともに、

生徒による自己評価を促すことによって自分の外国語能力を客観的に捉えることは、生徒による学習の振り返りにつながり、生徒の外国語学習への意欲を向上させることができます。」と述べられている。したがって、授業実践において、CAN-DOリストを活用した振り返りを行うことは、振り返りの工夫の一つであると考ええる。

3 研究の実際

検証授業 高等学校第2学年

単元名 Lesson 5 Science of Love

(1) 本単元の授業設計

本単元は、高等学校学習指導要領第2章第8節外国語のコミュニケーション英語Ⅱの内容を受けて設定されている。本文は、恋愛の原因等について科学的に説明した文章である。

本単元では、本文のテーマ「恋愛」から発想を広げ、「愛」をテーマにしたスキットを行う。その中で、生徒が自らの「愛」についての価値観を明らかにし、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせながら、自らの考えや価値観を表現できるようにすることをねらいとする。

(2) 単元目標

大津高等学校第2学年【CAN-DO リスト 話すこと（発表）】
自分の意見や感想と、その理由についてメモを基にして、聞き手に伝わるように発表することができる。

聞き手に内容が伝わるような工夫を加えてスキットを行うことができる。

(3) 単元計画

第1～4時 本文の内容理解（ワークブック活用）
第5～7時 スキット原稿及びメモの作成
第8時 スキット練習
第9時 スキット発表

(4) 研究の視点

〔視点1〕

スキット作成及び発表において、聞き手を意識した原稿作成や発表の練習を行うことで、生徒がコミュニケーションの目的や場面、状況等を踏まえながら活動に取り組むことができるようにする。

〔視点2〕

CAN-DOリストの項目を含めた振り返りシートを活用し、生徒が自らの変容に気づき、学びを実感できるようにする。また、発表練習の際にICTを活用することで、自らのパフォーマンスの改善につなげることができるようにする。

(5) 授業の実際

① 研究の視点1についての取組

ア スキットのテーマ設定について

本単元では、本文のテーマである「恋愛」に関連したテーマでスキットを行うことにした。さらに、大津高等学校で掲げられている『グローバルスタンダード』としての5つの視点」を参考にした。そこには、視点の1つとして「自ら考え価値観を表現する」ことが挙げられている。そこで、今回のスキットにおいては、「恋愛」から発想を広げ、「愛」をテーマとして設定した。それにより、生徒が抽象的な概念について自らの考えや価値観をスキットの中で表現することをねらいとした。

イ スキットのモデル提示について

第5時にスキット原稿作成についての説明を行った。その際、指導主事作成によるスキットのモデルを動画で示した。それにより、生徒がこの単元のゴールのイメージを持つことと、スキット発表の際のポイントに気付くことをねらいとした。第5時に使用したワークシートにおける生徒のスキット発表の際のポイントについての記述の一部は以下のとおりである。

- ・声量 ・表情 ・ジェスチャー ・話すスピード
- ・目線 ・できるかぎり覚える ・楽しく発表する
- ・動きを自然に

ウ スキット作成のためのワークシートについて

第5時から第7時までではスキットの前稿作成を行った。自由にスキットの流れを作成するAタイプ(図

1)のワークシートと、モデルで示したスキットを基にしたBタイプ(図2)のワークシートを準備した。今回の実践では、8つのグループ全てがBタイプを使用した。

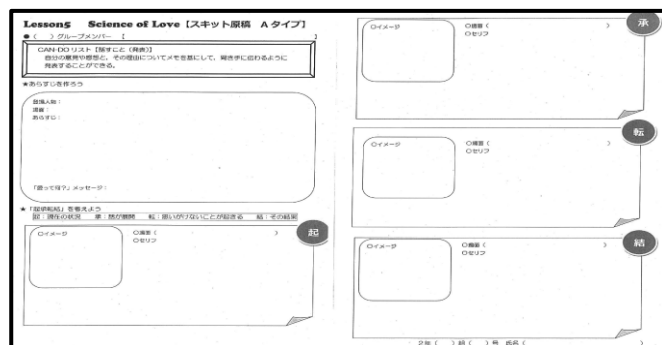


図1 スキット原稿Aタイプ ワークシート

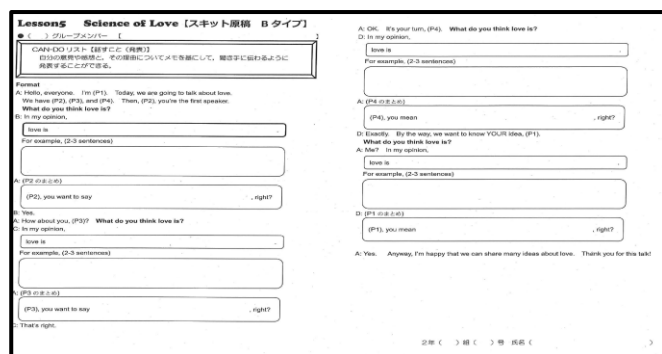


図2 スキット原稿Bタイプ ワークシート

エ 相互評価シートについて

スキット発表の際に使用する相互評価シートにおいて、本単元のCAN-DOリストに関連した評価項目と、第5時で生徒が挙げた「スキット発表の際のポイント」に関連した評価項目を設定した。また、第8時のスキット練習の際に、相互評価シートを示し、生徒が、発表を改善する視点を持ち、具体的に改善に取り組むことをねらいとした。

② 研究の視点2についての取組

ア 振り返りシートについて

本単元のCAN-DOリストを基に、各時の活動を振り返ることができる振り返りシートを作成した。その際に、各時に振り返る項目を焦点化することで、自らの学びの実感を引き出すことをねらった。

イ ICTを活用した振り返りについて

第8時のスキット練習の際に、タブレットPCを用いて各班の発表を録画し、その映像を



見て、自分たちのパフォーマンスを改善する活動を行った。

(6) 検証結果と考察

① 学習に関するアンケートより

表1は、実践の前後に調査した質問紙調査の結果である。

表1 「学習に関するアンケート」結果より抜粋 (n=31) 4件法

有意確率**<0.01 *<0.05

質問項目	事前	事後	差
⑥あなたは、英語の授業で学んだことを、その後の学習や生活の中で生かそうとしている。	2.19	2.58	0.39*
⑦あなたは、英語の授業の中で、友達と話し合ったり、協力したりしながら学習に取り組んでいる。	2.74	3.00	0.26*
⑩あなたは、英語の授業を通して、自分以外の考えに触れることで、新しい考えを持ったり、考えをより確かにしたりすることができている。	2.26	2.58	0.32*
⑪あなたは、英語の授業の中で、外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築しながら学習に取り組んでいる。	2.57	2.69	0.12
⑫あなたは、英語の授業の中で、これまでの学習を生かして、学習内容をより深く理解している。	2.30	2.68	0.38*

主体的な学習に関連する項目⑥や、対話的な学習に関連する項目⑦⑩、及び深い学習に関連する項目⑫について、有意に変容が見られた。このことは、本実践の主たる言語活動にスキットを設定した上で、(5)の①で述べた研究の視点1についての取組により、数値が向上したと考える。一方で、「見方・考え方」に関する項目⑪については、数値は上昇したものの、有意な変容は見られなかった。その理由として、今回の実践ではコミュニケーションを行う目的や場面、状況等についての取組が不十分であったことや、「外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに注目して捉えること」についての取組が足りなかったことが考えられる。

② 学習活動より

A 振り返りシートの記述及び生徒の発言より

(第1時から第8時まで)

はじめに、第5時から第7時(スキット原稿作成)

時の振り返りシートにおける生徒の記述の一部を示す。

- ・愛について自分の考えをまとめることができた。
- ・愛について考えるのは難しい。
- ・「愛」は色々あるということが分かった。

スキットのテーマ設定の工夫により、今回の学習が生徒にとって自らの価値観について考え、表現するきっかけとなったことがうかがえる。

次に、第5時から第8時(スキット原稿作成からスキット発表)の振り返りシートにおける生徒の記述の一部を示す。

- ・原稿をきちんと作れてすらすら読めるようになった。
- ・全部は暗記できなかったけど相手を見ながら話せた。
- ・何回かメモを見てしまったが、ある程度、暗記して発表できた。
- ・メモを見ずに言えたり、アクセントや声の大きさなど意識できたのでよかったです。大変だったけど、やりきれました。

これらの記述から、CAN-DOリストの項目を含めた振り返りシートの活用により、生徒が自らの成長や達成感を感じるなど、学びを実感している様子を見取することができる。

最後に、第8時(スキット練習)の振り返りシートにおける生徒の記述と、その授業後に生徒に行ったICTを活用した振り返りについてのインタビューにおける回答の一部を示す。

【振り返りシートにおける記述】

- ・声が小さかった。
- ・動画を撮ってみて、できていないところが分かりました。
- ・なるべくメモを見ずに読むようにする。
- ・まだ下を見てしまっていた。
- ・覚えるのに必死すぎて、聞き手の意識がなかった。
- ・メモを何度も見てしまったけど声は出ていて伝えることもしっかりしていた。

【インタビューの回答】

- ・発音やジェスチャーが難しいと感じた。
- ・スキットのモデルの動画ほど声が出ておらず、メモばかり見ていた。
- ・声が小さかった。メンバーがバラバラでまとまっていなかった。

ICTを活用して自らのパフォーマンスを客観的に振り返ることにより、自らの課題を明確に捉えた様子が見える。また、「聞き手の意識」についての言

及もあることから、ICTを活用したパフォーマンスの振り返りは、「コミュニケーションの目的や場面、状況等」を生徒により強く意識させるのに有効ではないかと考える。

イ 相互評価より

第9時にスキット発表を行った。表2に、全8班（A～H）の相互評価の値の平均値を示す。

●相互評価の各項目について	
内容について	
話の流れや愛についての考えがよくわからなかった。【1点】	
話の流れや愛についての考えが50％程度理解できた。【2点】	
話の流れや愛についての考えがほとんど理解できた。【3点】	
話の流れや愛についての考えが伝わった（おもしろかった）。【4点】	
英語の工夫について	
発声・発音をあまり聞き取れなかった。【1点】	
発声・発音を50％程度聞き取ることができた。【2点】	
発声・発音をほとんど聞き取ることができた。【4点】	
発表態度について	
元気がなく、原稿の棒読みだった。【1点】	
メモを基にしながら、元気よく発表していた。【2点】	
セリフを覚え、聞き手を意識しながら元気よく発表していた。【4点】	
内容記述について	
聞き手が、スキットから伝わった「愛」についてのメッセージを記入する。	

表2 相互評価シートの各項目平均点及び内容記述の数

※白抜きは最高値を示している。 ※A～Gについては、n=27。Hのみ n=28。
※内容記述については、内容に関する記述があったものをカウントして記入している。

班\項目	内容	英語工夫	発表態度	内容記述
満点	4点	4点	4点	—
A	2.70	2.81	1.85	16
B	2.67	2.67	2.04	15
C	2.92	2.69	2.23	19
D	2.63	2.15	1.89	21
E	3.41	3.56	3.00	14
F	2.67	2.96	2.15	15
G	3.59	3.70	2.96	24
H	3.04	2.68	2.07	21

相互評価の平均値のデータから、各班のパフォーマンスには、ばらつきがあることがうかがえる。その中でも、G班については、メモを見ないで発表したり、

ジェスチャーの使用や、黒板の使用など、パフォーマンスに工夫が見られた。内容についても、「愛は形のないものだ」というメッセージ性のある発言を行っていた。これは、第1時から第8時までの取組の成果であると考えられる。



ウ 意識調査より

表3に、実践の前後に実施した意識調査の結果の一部を示す。

表3 意識調査結果より抜粋（n=31）4件法

有意確率**<0.01 *<0.05

質問項目	事前	事後	差
①私は授業や学校生活において、自ら考え価値観を表現しようとしている。	1.84	2.23	0.39**
②私は、事前に英語での発表を練習するとき、聞き手にどのように聞こえるかを意識している。	1.40	2.68	1.28**

学校で設定されたグローバルスタンダードに関する項目①、及びCAN-DOリストに関連する項目②で変容が見られた。研究の視点1におけるテーマ設定の工夫や、視点2におけるCAN-DOリストの項目を含んだ振り返りシートの工夫により、生徒の意識が向上したのではないかと考える。

4 研究のまとめ（成果と課題）

今回の実践から、研究の視点1及び視点2に基づいた授業改善が、外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育む「豊かな学び」に資するものであると考える。今後は、「外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉えること」と「コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の設定」、及び「情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」の3点をさらに効果的に組み合わせ、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を生徒が働かせるような単元デザインを行うことであると考えられる。

《引用・参考文献》

- ・文部科学省(2018)「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」
- ・文部科学省(2013)「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DO リスト』の形での学習到達目標設定のための手引き」